



通信員コメント欄からの声を集めてみました。

希望記事

・来年は花粉が多くなるという噂ですので、花粉症対策法やグッズなど。

花粉症については二月号で掲載予定です。乞うご期待！

・子どもの世代別で「子どもとの関わり方」について
 ・働く女性の子育て期の乗り越え方（小一の壁、学童に入れたくない・入れない場合、放課後の過ごし方、役員活動との両立など）
 ・育児休業中から復職時にかけて、復職に関する支援プログラムを実施している自治体があればその内容が知りたい。
 ・世代毎の家族関係について、是非これからも掘り下げて欲しいです。晩婚化や男性の育児休業取得など、様々なライフスタイルがあるなかでどれが良い、悪いではなく「こんな生き方もあるんだな」ということを紹介いただければ記事としてすてきたと思えました。

家族や子育ての問題についてはライフプランにおいても重要なテーマ。今後も様々な角度から取り上げていきたいと考えています。

・静岡県富士宮市の若手職員が結成した「富士宮市職員イケ麺隊」を取り上げてみてください。かつて、本誌で甲府の鳥モツ煮のPRに取り組み自治体職員を取り上げられていましたが、見事今年Bー1グランプリで優勝されましたね。B級グルメで自治体の振興に取り組み職員の姿をこれからも取り上げてください。

甲府市職員有志による「みなさまの縁をとりもつ隊」は取材時の公言どおり優勝され、見事でした。全国にはB級グルメを活用した地域振興に取り組

む自治体職員の方も、きつと少なくないでしょう。機会があれば取り上げたいものです。

・日本以外の国の人々はどんなライフプランを計画しているのか知りたいと思います。

確かに気になる箇所ですね。情報があれば、ぜひ掲載したいものです。

・健康保険制度が目まぐるしく変動しているように思います。後期高齢者医療制度、国保制度、共済保険制度、健康保険制度の現在の制度の実際と今後の改正予定等あれば特集的に組んで頂ければと思います。
 ・住宅の購入や新築増改築等についての知って得する豆知識
 ・人前で発表や意見を言う際の注意点や心構えが知りたいです。
 ・地方公務員としての行動について気をつけていること
 ・夫婦で同じ官公庁に勤めている場合の正直な気持ち
 ・更年期障害について（男女ともに）
 ・春にギックリ腰をして以来、腰痛が慢性化して背中まで痛くなっています。運動不足もあるかも知れませんが、腰痛予防や対策などの紹介記事があれば助かります。
 ・病気に対する免疫力について、肯定派とそうでもない派の意見
 ・自治体の職場でも年々増えている、うつ病や大人の発達障害（ADHDなど）の人との接し方と、周りのサポート方法について情報が欲しいですね。
 ・残業後、遅い帰宅でも作ることでできるお料理のレシピ。健康は食事からだと思つので。
 ・円高、超低金利時代がやってきましたね。このような時代におけるうまい資金管理についてファイナンシャルプランナーの方の記事を読みたいです。

いずれも、来年度以降の企画として一度検討してみたいと思います。

その他ご意見

「アダプト制度」ものすごく興味があり、うずうずする感がある私。新しい物を開拓することもとても大切ですが、今ある私の「まち」を大切にすることが今できる最も重要なことのような気がしました。本市は市民協働のまちづくりを声たかだかにうたっています。今、考えるときかなあ…と思いました。

アダプト制度には、行政として、またプライベートとしても関わることをさせていただきますね。

「こうち森林救援隊の活動く女だつて木を切ります」快く読ませていただきました。救援隊の必要性からボランティア活動の実際までを明るく表現されています。日々の市役所業務を飛び出しているボランティア、ますますのご活躍を祈ります。

公務を離れたところで、仲間たちといきいきボランティア活動をされている様子が臨場感をもって伝わってくる記事でした。地元の言葉を交えた文章表現も興味深かったですね。

今回のカラダ改善ウォーキング、写真や絵もたくさんあり、とてもいい内容でした。最初に大事な靴の選び方など紹介して頂けると助かります。

同コーナーは次号まで連載予定です。次号で靴の選び方をご紹介できないか、相談してみます。

「老後に差がつく…妻の愛し方」を読み、大変考えるところがありました。自分では、気をつけているつもりでしたが、気持ちを改める良い機会になりました。

「老後に差がつく…妻の愛し方」楽しく読ませていただきました。まるで、我が家を覗かれているようでしたが、どこの家にもある話だったのででしょうか。次回が楽しみです。

「老後に差がつく…妻の愛し方」には考えさせられました。(笑) 妻には、何度もよく読んでおくようにと言われました。来月は… (他、同様意見多数)

今回の記事もご参考になれば幸いです。

「長男、次男の不登校、ひきこもりと闘って」は、筆者の方の気持ち が切実に伝わってきて、身につまされる思いで読みました。自分 はこれから親になる身ですが、様々な境遇の人がいることを忘れずに、育児 というものに真っ正面から向き合っていきたいと思いました。

不登校の記事、悩んでいる友達に見せてあげたところ、とても勇気を もらったと感謝されました。私の周りでも、不登校や暴力などテレビの世界でもない現実が少しずつ増えているような感じがします。この ような勇気を与えてくれる記事があるとうれしいですね

不登校、引きこもりの家族の体験記は切実な苦勞が伝わってきました。 同じ苦勞をしている方への心の支えにもなると思います。テーマが かなりシリアスで深刻ですが、だからこそライフプラン情報誌で取り上 げる価値があるのだと思いました。

ひきこもり、また就職浪人で家に居る子供についてとりあげてほしい。

ひきこもりの問題は当事者から他人に語られることが少ない中、つらかつた胸の内も含めて書いていただいた筆者の方には感謝しています。

「空想を物語に―小説を書く楽しみ」では小説を書いている方がいて、全くの素人からでも書くことは可能であると分かりました。自分も学生時代に短編を書いたことがあったので、再びチャレンジしてみたいなりました。

良い作品ができれば、応募されてもいいかもしれませんね。

・「家計見直し講座」は、ちょうど住宅ローン世代ということもあり、今月の記事はとても参考になりました。

・次回の「家計見直し講座」は、生命保険の見直しなのでとても期待しています。というのも、我が家は来年、長女が大学生、長男と次男が中学生ですが、現在の生命保険をどの程度に見直せばいいかの判断に困っています。

「家計見直し講座」は二月号までの連載を予定しています。皆さまの家計を見直す際の参考になれば幸いです。

・リポーターとして一般読者とはちよつと違った読み方をしています。特集されている職員の方をみますと、いろんな趣味、特技をお持ちの方が多くものだと感心しきりです。私はこれは負けない、という強みのある職員を目指したいと思います。地域づくりも、人づくりも、自分を見つめなおすことからではないでしょうか。本誌はそういう視座を与えてくれるものです。

本誌が読者の方にとって、何かを考えたり行動を起こすきっかけになれば本望です。

・若い人の記事を増やしてほしいです。読者層が広がると思いますが、若い人の頑張る姿に感心させられます。

今号では二〇歳代から六〇歳代までの記事を掲載しております。今後も幅広い年代層を取り上げていきたいと思えます。

・前号の当コーナーで「個人を取り上げる対談記事や体験発表はいかがなものか」という意見がありました。私は全く逆です。価値観の多様化で自分にあてはまる記事を掲載するのは大変難しいので、逆にいろんな趣旨の記事を読んで自分の価値観を広げることが大事だと思います。

いろいろな考えの方がいらつしやる中で、それぞれのご意見に耳を傾けながら編集していきたいと考えています。

・表紙のデザインを見直し、もっと明るく写真等を活用してほしい。表紙のイメージがパツと見て「お堅そう」な雑誌の雰囲気になっている。

貴重なご意見、ありがとうございます。本誌の表紙イラストについてはご好評もいただいていますので、両方のご意見を参考に今後検討してまいります。

